



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第103号

2012.8.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

ー水辺のいきもの展示について

活動報告

ーブッポウソウの観察会

ー夏休み親子観察会

～水辺の生きものを観察しよう！～

ーカワシンジュガイ探検隊

ー可愛川の水生生物観察会

観察会案内

ー霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

ー霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）

ー深入山の植物観察会

お知らせ

● 水辺のいきもの展示中

高原の自然館内の水槽で芸北の川に生息するカワシンジュガイとアブラボテを展示しています。じっくり観察できる機会です。ぜひご覧ください。

観 察 会 報 告

● ブッポウソウの観察会

開催日時:2012年7月15日(日)9:30

講師:松田賢

観察会にはもってこいの快晴の中、23名の方が参加されました。

まず、松田先生による講義を聴きました。講義では広島県や芸北地域で、ブッポウソウを保全するためにどのような活動を行っているのか、ブッポウソウの生態研究などを説明されました。その中で、繁殖を促すために巣箱を設置したが、闇雲に数を増やすだけでは営巣数が増える訳ではないことや、給餌の回数が多く、朝早くから日暮れまで雄雌交代で給餌をしていること、硬い甲虫類を好んで食べ、それらを捕獲するために夜に近い時間になると給餌活動がより活発になるということを知り、印象に残りました。また、保全の結果、広島県での絶滅危惧のランクがⅠ類からⅡ類に下がったという話には驚きました。

講義の後は巣箱のある場所へ移動し、松田先生とブッポウソウの観察を続けている川小田の上田さんと二人で解説をしてもらいながら実際に観察します。巣箱には複数の雛がいて、代わる代わる周りを伺うように顔を出しては、口をパクパクさせていました。ですが、親が給餌しに現れないので不思議に思っていると「雛は巣立ち直前で、巣立ちを促すために給餌活動を減らしているのだろう」という説明がありました。親鳥を待つ間、前日に上田さんが撮影された親鳥の写真を見せてもらったり、そのときの様子を聞きながら、時折巣箱の周りを参加者みんなでみまもっていると、親鳥が巣箱から少し離れた位置に止まりました。親鳥は巣箱に近づこうとせず、時折周囲を回っては、離れて、また戻るということを繰り返していました。先ほどの説明にあった「巣立ちの促し」を実際に確認しつつ、給餌はもうやらないのかと、半ば諦めた頃、親鳥が巣箱に近づき給餌を行いました。本当に一瞬のことで、見た人も見られなかった人も気分が高まり、「もう一度給餌しないか」「巣立ちの瞬間も見たい」と期待を込めて巣箱を見つめました。残念ながら何度か給餌したものの、巣立ちを見ることはできませんでした。

巣立ち直前の雛や成長を促す親鳥が見れて、

貴重な観察会となりました。

[はたとやすひこ]

※ 資料写真や現地の観察を、上田清治さんにお手伝いいただきました。ありがとうございました。



巣箱ではヒナが顔を出しては周りを見ている。



双眼鏡を手に観察開始。



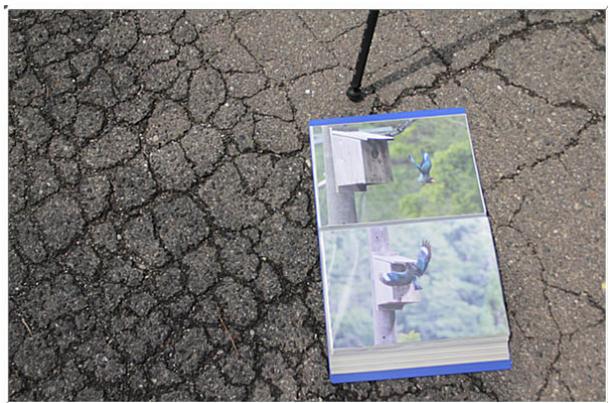
貴重な一瞬を撮るため、真剣な表情で見守る参加者。



写真を資料にブッポウソウの解説をする松田先生。ヒナ



携帯電話での撮影にチャレンジ。うまく撮れるかな？



ご近所に住む上田さんが観察しているブッポウソウの写真。青い羽と赤いくちばしが鮮やか。

【みなさんの印象に残った物】

「鳥の観察には、待つことが大事だということ」「巣立ち前のブッポウソウのひな(3)」「雛が巣箱から顔を出したこと」「ヒナが3羽もいたのにはビックリでした」「巣立ちを促す親鳥の様子がけなげな事」「親鳥の広げた羽の色が見れてよかった」「雛も見ることができたし、えさやりも見ることができた事(3)」「ヒナのくちばし、体色(2)」「説明が良かったです」「ブッポウソウの止まっている姿や巣の雛が見られたこと」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「お天気も晴れて親切に観察できるムードを作ってください、感謝しています」「自分の家の前に巣箱を作ってみます」「レクチャーがとても興味深く面白かった」「のんびりできました」「もっともっとブッポウソウが増えれば良いですね」「相手も生きているので人間の都合どうりにはいかない」「ブッポウソウの観察も大変でした」「ブッポウソウ、ヒナも見れたし、写真もたくさん見せてもらって良かったです」「里山でこんな普通に見れるとは思わなかった」「昨年からはブッポウソウを見たいと思っていましたので見る事ができて良かったです」「ヒナを見られたのは良かった(2)」「楽しかったです」「近くで見られてよかった」「貴重な機会をありがとうございました(2)」

観 察 会 報 告

● 夏休み親子観察会 -水辺の生きものを観察しよう！-

開催日時:2012年7月22日(日)9:30

講師:佐久間智子・内藤順一

夏休みが始まり、すっきりとした快晴のなか親子合わせて24人が自然館前に集合しました。

最初の会のあと今回の観察場所である霧ヶ谷湿原に向かいます。湿原に到着すると、講師である内藤先生と佐久間先生から、今回の調査について「水の中にはどのような生きものがいて、どんなふうにくらしているのかを自分たちで実際に探して、図鑑で見たり、質問したりして調べてみましょう」というお話がありました。

そのあと、4班にわかれてそれぞれ上流、下流の調査を開始しました。最初は堰を降りて下流に向かいました。班それぞれにバケツを持って、2カ所で調査を開始します。水の冷たさに少し驚きつつも、一人が網を持ち、もう一人が近くの石をめくり上げては、洗い流すように石についた付着物を網に落としていきます。それを何度か繰り返していくと、バケツの中には砂や泥に混じって色々なものが動いています。ある程度時間が経った所で上流と場所を交代します。上流は下流に比べて、流れが急な場所もあれば、水の流れがほとんど止まったように感じる場所もあり。下流とはまた違った生物に出会えそうに感じました。ここでもそれぞれの班が2カ所の調査を行いました。

川から上がり、4班全員が合流すると、バケツの中身をバットに出して、同じ種類は一緒の容器に、違う物は新しい容器へと見つけた生物を分けていきます。タカハヤに気を取られ、バケツの中に他の生物がいるのか分からないと言っていた班の子ども達も、じっくり探すと色々な生物を見つけることができました。容器に分けるのが終わると、内藤先生が1種類ごとに解説して下さいます。様々なヤゴやヘビトンボの幼虫、姿のよく似たカゲロウやトビゲラの見分け方などです。中でも普段見つけることが難しい、ボルボックス(?)の発見には皆さん驚いていました。これは群体とよばれる生態を持つそうです。

最後に今日一番印象に残った生きものの絵を紙コップに描きました。そのコップを使って佐

久間先生が川の生態系を表したタワーを作りました。「生物は他の様々な生物とつながっており、環境が崩れれば生態系も崩れてしまう」という事を分かりやすく解説してもらい、自然の大切さを学びました。

自分で探すことで興味をより持てたり、どういった場所にどんな生物が生きているのかを自分の目で見る事ができて有意義な親子観察会となりました。[はたもとやすひこ]



石の裏にいたヤゴ。トンボの種類はあとで先生に聞いてみよう。



冷たい水もなんのその！突き進んでいく男子たち。



みんなで生きものの仕分け中。どんな生きものがどれくらいいるかな？



生きものを描いた紙コップでできたピラミッド。いったい何が始まるのかな？



佐久間先生の解説中。

【みなさんの印象に残った物】

「自然の美しさ」「いっきに魚を8ぴきとれたこと」「ヘビトンボを見たこと(2)」「魚などをとった時」「川に入って色々な生物を捕まえて、観察したこと(2)」「川でカニをとれたこと(4)」「水がきれいだったこと」「ボルボックスを見たこと(2)」「川の水が冷たくてびっくりしました。上流、下流で生き物が違うことも勉強になりました」「川にこんなにたくさんの生き物があるというのがすごかったです(2)」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「普段目にしない水の中の小さな生き物に注目できて良かったです」「楽しく、いろいろ学ぶことができました」「川にはいろいろな生物をとれたから、楽しかったです(4)」「とりのこえがきれいでした」「いろんな生きものがいてすごかった」「親の方が勉強になりました(生きものの名前をほとんど知らなかったの)」「図かんを見ながら説明してくれたので分かりやすい(2)」「ふだんはしないことができて良かったです。家でも水の中の虫や魚等をとってかん察したいです」「なかなかこういうきかいはないので、とても良かったです」「楽しかった(4)」



生きものの特長や生息地を内藤先生が図鑑を使って教えてくれたよ！

観 察 会 報 告

● カワシンジュガイ探検隊

開催日時 : 2012年7月29日(土) 9:30

講師 : 内藤順一

夏らしく晴れ上がった日に、子ども一人を含む6人でカワシンジュガイの観察を行いました。北広島町に棲息するカワシンジュガイは世界の分布南限に位置する個体群です。1986年に発見された時にはすでに絶滅の危機にありましたが、芸北町が天然記念物に指定し、環境庁も関わって保護増殖事業が進められたことで、2007年には約1200個体が棲息していることが確認されました。現在もアマゴの放流や、工事の際には一時的に保護するなど、継続的に保護されているため、個体数は増加していると考えられています。今回の観察会では、既知の棲息地で観察を行った後、川の下流に移動して、まだ棲息が確認されていない場所で探索を行いました。もしもカワシンジュガイが見つければ、カワシンジュガイの分布限界が、少しだけ南下することになります。

カワシンジュガイを観察した棲息地は、護岸の工事が行われた場所ですが、水生生物が棲みやすいように流路内に土が残されています。カワシンジュガイの棲息密度も高く、簡単に見つけることができました。棲息地の水深や水の温度などを確認してから、いよいよ本流に向かいました。

支流が流れ込むところから川に下りていきました。水際をガサガサと探ってみると、網にはタカハヤやドジョウに混じってアブラボテも入ってきます。アブラボテはカワシンジュガイに卵を託すので、カワシンジュガイの棲息が期待できます。潜ったり、箱メガネを使ったりして、調査を始めました。しかし、しばらく探しても、いくつかの殻が見つかったものの、生きている個体は見つかりませんでした。

今回の調査で、棲息の確認はできませんでした。いくつかのことが分かりました。ひとつは、流れてくるカワシンジュガイの大きさが4cm～5cmだということです。カワシンジュガイは自分で泳いだりできないので、上流に移動するのはアマゴに寄生している幼生時代に限られ、基本的には出水時に下流に流されることになります。この日に見つかった殻が4cm

～5cmだったということは、このサイズの個体が流されやすいということかもしれません。また、この日はオオサンショウウオの幼生が4個体見つかりました。まだ鰓のある幼生が見つかったということは、この流域で繁殖していることの証拠です。カワシンジュガイの生きている個体は見つからなかったものの、大きな収穫のある、充実した観察会になりました。

[しらかわかつのぶ]

※ 写真記録や現地の観察を、奥山秀輝さんにお手伝いいただきました。ありがとうございました。



はじめに訪れた棲息地ですぐにカワシンジュガイが見つかった。



箱メガネでカワシンジュガイを探索中。



そして時々魚とり。



見つかった殻はどれも同じくらいの大きさだった。



新たな棲息値を探して本流に移動。



ガサガサの網に入ったオオサンショウウオの幼生。内藤先生が計測・記録をしてもとの場所に放流した。



結局殻だけが見つかった。

【みなさんの印象に残った物】

「滝山川本流でみつかったこと、オオサンショウウオの幼生が見つかったこと」「川真珠貝の実物をはじめて見ることができよかったです。オオサンショウウオの幼生に会えたのもよかったです」「川の中を歩き、その楽しさを発見したこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「楽しかった。また行ってもらいたい」「とても楽しかったです」

観 察 会 報 告

● 可愛川の水生生物観察会

開催日時 : 2012年8月5日(日) 13:30
講師 : 内藤順一

雲のおかげで日差しの弱まったお天気の中、25名の方が集まりました。まず千代田中央公民館で今回の講師である内藤先生の講義を聞きます。講義では可愛川に生息するオオサンショウウオを中心に、小型のサンショウウオの事も学びました。その中で、サンショウウオの間には日本固有の種がたくさんあり、そのどれもが準絶滅危惧種などの貴重な生物である事を学びました。また、江戸時代末期の頃から海外では自国に持ち帰り、研究するほど貴重な存在であるという認識があったことには驚きました。生態や歴史を学んだ後は、実際に行われている調査がどのような方法であるかを聞きます。オオサンショウウオの生息を確認するマイクロチップの有無、全長や体重、胃の内容物にどんな物があるのかを調べるそうですが、胃の内容物を調べると、餌となる魚や虫だけでなく、白菜をほぼ丸ごと食べていたり、自らの脱皮片すら食べていたり、すごい食欲に皆さん驚かされていました。

講義終了後は観察場所である可愛川へ移動します。川の水は程よい冷たさでしたが、足を滑らせないように気をつけながら移動します。巣穴になりそうな場所を調べると、オオサンショウウオがいました！観察のために岸へ移動させます。同じ場所から7匹見つけることができました。発見した参加者は皆ほころしそうな表情でした。オオサンショウウオ以外にも、イトモロコヤムギツク、ヨシの中にはツチガエル、トノサマガエルがました。他にも、小さなサカマキガイやチチブ、スジエビなど。川に生息する生き物も確認できました。岸に戻ると、オオサンショウウオの目や鼻、足などを観察します。正面から見るオオサンショウウオの顔は迫力があり、時折口を開けて、少し暴れる様子には子どもも大人も少し驚いていました。

最後に小さい個体にマイクロチップがついているかを確認します。今回は2匹のうち1匹が新たに発見された個体のように、新しくマイクロチップを注射器で体に埋め込んだあと、オオサンショウウオを元の場所に戻しました。貴

重な生きものだけでなく、身近にいる生きものも間近に見ることができて、思い出に残る有意義な観察会となりました。[はたもとやすひこ]

※ 写真記録や現地の観察を、奥山秀輝さんにお手伝いいただきました。ありがとうございました。

※ 観察会での採集は許可を得て行なっております。



まずは座学でサンショウウオの生態を学んだ。



現地へ移動。転ばないように気をつけて。



ヨシの茂みに巣穴がないか探してみる。



調査が終わったら元の場所に返し、観察会は終了。



初めて見るオオサンショウウオをおそろおそろ覗き込む。



オオサンショウウオの上半身。顔は怖いけれど赤ちゃんの手のような前足はちょっとかわいい。

【みなさんの印象に残った物】

「実際にサンショウウオが見れたこと(4)」「今年もサンショウウオに会えて感動。初め見つからず、心配しました」「オオサンショウウオの大きさ」「最初なかなか見つからなかったが、オオサンショウウオが7匹も見つかったよかった」「オオサンショウウオを見たこと」「水温が高かったこと。一昨年と比べて、個体数が少なかったかな?」「オオサンショウウオの生息場所を見られたこと」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「とても感動しました」「人間の2億3億年前より生きているオオサンショウウオ。絶滅を心配されるが人間の方が先かも!!...??」「子どもの頃はよく見ていたのでなつかしかったです」「なかなかみれないものを近くで見たりでき、とてもよかった。説明もわかりやすかったです」「オオサンショウウオが大きかった」「オオサンショウウオのにおいをかぎつけて勉強になりました。手がとてもかわいかった」「オオサンショウウオがとてもかわいかった。(2)」「オオサンショウウオ以外の生きものも、たくさん調べたかった」「最初はなかなか見つからなかったけど、たくさん捕まえられてよかった」「大変楽しかった」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

開催日時：2012年9月15日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄・大竹邦暁・内藤順一・松田賢・和田秀次
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：無料
※ 今回の観察会は損保ジャパンのSaveJapanプロジェクトの支援により、参加費無料です。

秋の風が吹き始めた霧ヶ谷湿原で、いきもの観察会を開催します。アカトンボの仲間やタナトトリカブト、ゴマナなど秋の植物やそこに集まる昆虫達を観察しましょう。自然再生事業の効果や現状のお話も聞くことができます。

● 霧ヶ谷湿原の植生調査(秋)

開催日時：2012年9月22日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信
準備：作業セット
定員数：30名
参加費：無料

夏に続き、秋も植生調査を行います。調査をすることにより、変化していく湿原の様子を知ることができます。また専門家の先生に、植物の特性を聞くことができるので、楽しみながら作業できます。この時期は実がついている植物もあります。観察会とはちがった観点で植物を見ることができますよ。

● 深入山の植物観察会

開催日時：2012年9月29日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：大竹邦暁・佐久間智子・和田秀次
準備：基本セット、お弁当
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

久しぶりに開催する深入山の植物観察会です。毎年の山焼きによって維持されている草原の山。この時期どんな植物を見ることができのでしょうか？継続して調査をされている講師ならではの解説を聞くことができます。下山は午後になりますので、お弁当やおやつをご持参ください。



「今年は猛暑」とよく耳にしました。ここ八幡でも暑さを感じた瞬間が何度かありました。とはいえ、寝苦しい夜もなく、高原のメリットを十分に感じるこのできる時期です。暑さもあつという間で、秋の草花も咲き始めました。夕暮れや夏空の星のきらめきなど、紹介したい景色がたくさんあります。こういったささやかなことが、暮らしの糧だと近頃思います。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info